

### 3学期 始業式 式辞

2025年、令和7年がスタートしました。皆さん、明けましておめでとうございます。年末・年始にかけてどの様な日々を過ごすことができたでしょうか。

暖かく晴天の続く三ヶ日で、ご家族の皆さんと、また普段会えないご親戚の皆さんともお互いを敬う挨拶と同時に、成長の喜びと将来の夢を交わすなど親交を深めた人もいたことでしょう。

一年前は、元日から震度7の石川県能登半島地震、二日には、羽田空港での旅客機と海上保安庁航空機との衝突事故などにより、尊い命が犠牲となるなどの災害や事故があり、年始めから災害に対する備え、事故が起きない予防策を考えるスタートとなりました。

未だ復興半ばで、普段の生活もままならない住民の方々、その中で過ごす高校生など、将来に不安を抱える人が多数いることを考えると、一早い復興を願うばかりです。

さて、今年は十二支で言うところの巳年です。もともと中国で年を一二種類の動物になぞらえたもので、一から十までを数える甲、乙、丙(きのえ、きのと、ひのえ)などの十干(じっかん)と組合せ、2025年は2番目の「乙(きのと)」の「巳年」、「乙巳(きのと・み)」と言うそうです。

乙(きのと)は、中国の思想、陰陽五行(おんみょうごぎょう)の「木」の要素をもっていて、しなやかに伸びゆく様子と、巳年に表されるへびが脱皮を繰り返して成長する様をなぞらえて、乙巳(きのと・み)の年は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年と考えられているようで、皆さんにとっても、とても良い年となる様に感じます。

少し話を変えて皆さんに質問しますが、皆さんが、もし、両手にたくさんの物を握っている時に、新たな興味関心を惹かれる物と遭遇したら、どうしますか。

(1) 素通りする。(2) 観察して終わる。(3) 一旦、持っている物を置いて、新たな物を手に取って、手触りを確かめながら観察する。(4) 更にその物から新たなインスピレーションを感じるようであれば、前から持参していた物の中から精査して持ち替える。

皆さんも気づいているように、たくさんの物を握りしめていては、新しいものを手にすることはできません。

皆さんは、以前の出来事や物の良さを、十分に認識しつつ、しかし囚われず、新しい物を吸収し、成長する資質をもっているものと思います。Society5.0の変化の激しい時代にあって、変化に抗わず、吸収・進化する姿勢は大切です。

いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しい変化を重ねているものをも取り入れることを「不易流行」と言いますが、皆さんにもぜひ、今までのことに囚われず「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年である乙巳(きのと・み)から、まずはしてこなかったことに対して「**チャレンジする年**」としてみてください。

「失敗無くして成功は無し」「トライ&エラー」「エラーを恐るるべからず」「エラーこそ成長の卵なり」。経験を実力に変え、巳年にふさわしい「成長の年」となることを、年の初めとして皆さん

んに期待しています。

また、年度初めからお話ししています、『「人の想い」「時間」「基礎」を大切に』についてですが、3学期は特に「基礎」について考えてみてください。

3学期は、皆さんにとって締めくくりの学期であり、学年末を迎える学期です。各学年を修了する時期であり、3年生にとっては、高校最後の学期となります。

皆さんは、学年の学習に関する基礎から、ピラミッドの様に基礎・応用と積み重ね、また、社会で必要とされる考え方や礼儀作法を備えるなど、進級、内定や合格、卒業だけを意識するのではなく、その先に何が待ち受けているかを、見通しをもって、今、取り組んでください。

話しは変わりますが、皆さんは『臨機応変』と『行き当たりばったり』の違いについて考えたことはありますか。

例えば、事前に次の日の天気予報の降水確率を確認して、傘を準備しておき、「雨が降ったら差す」「雨が降らなかつたら差さない」といった見通しをもった行動で、対処できることが『臨機応変』です。

『行き当たりばったり』は、「雨が降ったら傘を買って差す」も、有効に見えますが、買わなければならない、売ってなければ差せないなど、対処できないことがでてきます。

『臨機応変』に行動するとは、「もしこの場合だったらこの様にしよう、違った場合はあの様にしよう」と、緻密な計画と準備があつてのことです。ノープランでの行動は『臨機応変』とは言いません。普段から一つの物事を多面的に捉えて「想定外」を減らすことが、どの様な事態が起きても対処できる『臨機応変さ』を身に付けられるのです。

話を元に戻しますが、「人生」という皆さんが主人公の物語は、ある程度の見通しをもって、揺るぎない地盤・基礎が備わった地点から社会へスタートすることが better です。

以前も皆さんに話をしたように、建物の基礎は、普段は目に見えないものです。

ただその役割は、とても重要であることを皆さんも知つてのとおりです。学校で学んでいることは、「学習」の基礎や、生涯を通じて自らが学ぶ力、自学力の向上だけでなく、『学習活動等を通じた「人との接し方」』や、先ほど例にあげた『臨機応変さ』など、物事の考え方・捉え方も学び、「生きる力」を身に付けることが大切です。それこそが社会で生きていく為の基礎となるのです。

結びに、皆さんが、日々、学習や部活動などで、地道にコツコツと見通しをもって努力し、技術や思考を少しずつでも高みに積み上げることを怠らない「直向きな姿勢」で、基礎を身に付けることと、先にお話しした乙巳(きのと・み)の年に「チャレンジによって成長」することを併せて期待し、3学期始業式の式辞といたします。